

キャン ドウ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2025 年 6 月[第 110 号]



父母リーダー育成の合意形成
—コンゴロニ教育区教育官との会議
(2025年3月)



父母リーダー研修の準備
—候補との会議と質問票調査(4月)



教員へのライフスキル教育研修
—教科書の内容を実演(2025年3月)



父母リーダーによる学校活動
—生理ナプキン交換室つきの
トイレの通路を補修(2月)



活動の方向性 ライフスキル教員と父母リーダーとの連携促進

永岡 宏昌

ボランティア便り パロンベでタバコ農業を考える

永岡 宏昌

ひと 準スタッフからスタッフを終えて

武村 妃南

準スタッフを終えて

庄村 萌々

報告 マラウイでの活動—2024 年 12 月／2025 年 1 月～5 月—

国内 2025 年度年次総会を開催

事務局から

ライフスキル教員と父母リーダーとの連携促進

代表理事 永岡 宏昌

マラウイ共和国パロンベ県で、当会はライフスキル教育を基盤とした子どもの教育と健康・安全を保障する活動形成事業を進めています。その中で、対象教育区の初等学校を訪問して、ライフスキル授業の観察、および教員からの聞き取りと意見交換を行ってきました。ライフスキル授業を受けた子どもが、友だちからの不適切な誘いを断ったり、平和的にいさかいを解決するなど、生活の中でライフスキルを用いていることが、教員たちから多く語られました。また、家庭や地域において大人たちから教えられたり、態度で示されるさまざまな暴力や性に関する習慣や考えなどが、授業で学ぶことと大きく異なっていて、子どもは大変戸惑っているとの発言もありました。

これらを参考にしながら、パロンベ教員養成大学の講師の協力を得て、ライフスキル教員への研修の実施手順書を作成し、ナゾンベ教育区で10回の集合研修を実施しました。

研修テーマは、①ライフスキル教育 ②対立を避ける ③性の発達を理解する ④性的な関係を避ける ⑤家庭内暴力を理解する ⑥子どもの保護と権利 ⑦感情とストレスに対処する ⑧ジェンダー平等とエンパワーメント ⑨文化的多様性と配慮 ⑩災害の予防

と影響の緩和です。

研修講師として、教育局のほか、社会福祉局や保健局の専門行政官に協力してもらいました。教員が、子どもの教育・健康・安全の保障について、異なる視点から知識を学び、意見を交換し、ライフスキル授業の発展につながることを目指しました。

女子が大人になる儀礼の中で、親が準備した男性と性交する習慣について、ライフスキル教科書でも取り上げられていて、長らく根絶が目指されています。けれども教員はいまだに続いていると確信していました。その問題をはじめ、研修を通して、子どもの権利、男女平等、平和的な対立解決、文化や伝統の尊重と有害な文化習慣などが話し合われました。

このライフスキル事業では、ライフスキル教員研修の前に、まず、同じ学校の保護者から選抜された父母リーダーにライフスキル研修を実施しました。そして、父母リーダーによる学校や地域での学習会の開催や学校の施設改善の活動を促してきました。

研修を修了した教員と父母リーダーが同じライフスキルの視点にたって、子どもが家庭や地域で直面している課題の解決つながらることを目指して、連携を進めるよう働きかけていきたいと考えています。

ブランタイヤ便利

パロンベでタバコ農業を考える

永岡 宏昌

マラウイは小さな国ですが、タバコ葉の輸出では世界で7位です。国の総輸出収入の半数以上をタバコ収入が占めて、人々の生活がタバコ農業に大きく依存しています。

パロンベ県での農業は、11月から翌年3月くらいまでの雨期を中心に進められます。村人は、チーフから使用を許されている畑で、家族単位で食料のための穀物やイモ、現金収入のための作物を栽培しています。タバコも、大規模なプランテーションではなく、家族の畑の一部で栽培されています。

雨期が始まる頃に、苗床で育てた苗が畑に植え替えられ、生育とともに下のほうからタバコ葉を順番に切り取って、家の庭先にある屋根付き乾燥棚に吊るして乾燥させます。



乾いたタバコ葉は、4月前後に、集荷します。生産者グループで集めて、貸与されている1立方メートル程度の金属ケージに麻袋を

内張して、タバコ葉をいれ、押さえ板をおいて、ネジ山付き金属棒を回転させて圧縮します。この麻袋を大型トラックで回収して、ブランタイヤのタバコ入札市場に持ち込みます。また、タバコの種子も採取して、翌年の栽培に使います。パロンベでのタバコ農業は、家族単位での生きるための、生産と生活パターンのなかに組み込まれているようです。

最近、マラウイに植民地時代にタバコ栽培を持ち込んだ英国が、今後の世代がタバコを買えなくすることで、タバコの消費を実質的に禁止する法律を作ろうとしています。タバコが、人々の健康にとって有害であるとの知見が深まってきたと理解できます。

私が好きな赤ワインでは、「タバコの香りのような美味しさ」と表現することがあります。私には、美味であることとタバコの香りが結びつくことはありません。おそらく多くの人がそうでしょう。でも、その表現から、タバコは、時代の流れのなかで、人々が好んで消費するものから、多くの人が忌避するもの変わってきたことを思います。

タバコ生産に過度に依存する経済が形成されたマラウイが、その依存から脱却できるように、国際協力することは必要ではないかと考えています。

ひと 準スタッフからスタッフを終えて

自ら考え、行動する姿勢

武村 妃南

2024年7月中旬、準スタッフとして初めてマラウイに赴任した。右も左も分からない中でのスタートだったが、永岡さんのご指導のもと、自ら考え、行動する姿勢がだんだんと身についた。スタッフとなってからは、マラウイ人スタッフも同じように、自ら考え、率先して仕事に取り組めるようになる、そのような関わり方を常に意識して接していた。

アドミン(管理)業務を中心に担いつつ、現場にも足を運ぶことができた。地域住民が主

体となって取り組む姿を間近で見る機会にも恵まれた。現地の人々が自らの力で動き、私たちはその背中を後押しする。そのような関係性の中に、私がずっと問い続けてきた「本当の意味での国際協力」があると強く感じた。

この現場での気づきや出会いの一つひとつが、今の自分を形づくっていると感じている。これからこの経験を糧に、自分の歩道を深めていきたい。(たけむら ひな)

ひと 準スタッフを終えて

マラウイで見た暮らしと学び

庄村 萌々

マラウイで過ごした2024年8月から2025年2月の間は、教員研修の準備や、父母リーダーによる教室やトイレの補修などの学校活動が進んだ。一方で、物価の高騰や干ばつによる農作物の不作により、地域の生活は一層厳しさを増していた。そうした状況の中でも、地域の大人たちが子どもたちのために話し合い、主体的に行動している。その姿から、困難な環境の中でも、子どもの教育・健康・安全といった中心的価値を大切にしながら、地域の人々が中心となって活動す

ることの重要性を学んだ。

また、日々の生活に困らずに過ごせた自分の環境や、現地での日本人に対する印象から、日本人であることがもたらす特権的な立場を強く意識する機会も多かった。

だからこそ、今回の経験を通じて得た学びや、特権性への自覚を忘れることなく、それぞれの地域に暮らす人々を中心に考え、健康と生活を支える看護職を目指したいと考えている。

(しょうむら もも)

報告 マラウイでの活動—2024年12月／2025年1月～5月

■パロンベ県—ライフスキル教育を基盤とした子どもの教育と健康・安全を保障する活動形成(2023年12月～3年間):

9教育区のうち4教育区が対象。最初に活動するのはナゾンベ教育区(11校)とクランベ教育区(12校)、次はミテケテ教育区(8校)とコンゴロニ教育区(12校)。

□2024年12月

□ナゾンベ、クランベ教育区で父母リーダーによる学習会の開催が低調なため、フォローアップ会議を継続。

□ナゾンベ、クランベ教育区の全校と父母リーダーによる学校活動の覚書締結を完了。

□ミテケテ教育区で父母リーダー育成の合意形成を開始。

□2025年1月

□ナゾンベ、クランベ教育区でライフスキル教員研修のためのベースライン調査と教員との合意形成が全校で完了。

□2月

□ナゾンベ教育区で教員研修の計画を確定(全10回)。

□ミテケテ教育区の父母リーダー研修について全8校での合意を得ました。

□3月

□ナゾンベ教育区で教員研修を4回実施。

□コンゴロニ教育区教育官を訪問。各校を訪問して合意形成を行なうことで合意しました。

□4月

□ナゾンベ教育区で教員研修を機に、父母リーダー、教員代表、チーフと会議。

□ナゾンベ、クランベ教育区で父母リーダーによる学校活動が3校で完了(計14校)。

□ナゾンベ教育区で3回の研修を実施。

□5月

□ナゾンベ教育区で教員研修が完了。

□ミテケテ教育区でライフスキル教科書を供与。父母リーダー研修を2回実施。

報告 2025年度年次総会を対面とオンラインで開催

2025年3月29日(土)、CanDo東京事務所およびZoomを利用したオンラインで2025年度年次総会を開催。一般会員46人のうち26人が出席—対面4、オンライン7、書面および電磁的方法による表決6、表決委任9—、定款の定足数「3分の1以上」を満たしてい

て成立。事務局長 佐久間典子がオンラインを併用するので議長を務めることを諮り、全員異議なく選出されました。審議の結果、第1号議案2024年度活動報告・会計報告、第2号議案2025年度活動計画・予算が承認されました。

事務局から

報告

◇組織

○3月8日、Zoomを利用したオンラインで、2025年度第2回理事会を開催。2025年度年次総会議案を審議して決定しました。

○3月29日、CanDo東京事務所における対面とZoomを利用したオンラインで、2025年度年次総会を開催。2024年度活動報告・会計報告、2025年度活動計画・予算が承認されました(詳細はp.5参照)。

◇連携

○4月1日、特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター(JANIC)に正会員として入会しました(2007年7月～正会員。2019年9月、退会し団体協力会員として入会。JANICの定款変更に伴い、団体協力会員の区分がなくなるため移行)。

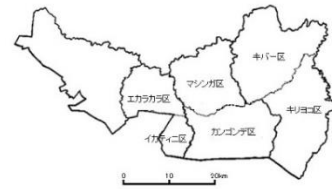
人の動き ～2025年6月18日

○3月27日、準スタッフとして、野藤 和花子(のとうわかこ)、川口 凜(かわぐち りん)、内田 宇宙(うちだ ひろし)をマラウイに派遣しました。

○4月12日、代表理事 兼事業責任者 永岡宏昌がマラウイから帰国しました。

○4月29日～5月17日、永岡がマラウイに出張。

この1枚—



20年にわたって活動したケニア共和国の3つ目の活動地、マチャコス地方マシंगा県マシंगा郡の地図です。最初に活動したムイソウ県西にある2つ目のミグワニ県の西隣に位置します。

2013年から2017年、キバー区とマシंगा区でJICA草の根技術協力事業を実施。

2015年に他の4区(最初はうち2区)で外務省日本NGO連携無償資金協力を開始し、2018年に終了しました。

■次号は2025年9月に発行の予定です。

CanDo アフリカ [第110号]

2025年6月26日発行／7月24日第2版

発行人:

永岡宏昌

編集人: 佐久間典子

発行:

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室

電話:

03-3822-1041

電子メール:

tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト:

<https://www.cando.or.jp/>

facebook page:

<http://www.facebook.com/candoafrica>

郵便振替:

口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会